

41 ICU(集中治療室)における人工呼吸器関連肺炎発生率

指標の解説

- 人工呼吸器関連肺炎(VAP)は、人工呼吸器の装着が契機となり発生する肺炎を指す。VAPには、以下のようなリスクがある。
 - 48時間以上人工呼吸器を装着した患者の約10～20%がVAPを発症する。
 - VAPを発症した重症患者は、VAPを発症しなかった重症患者に比べて、死亡するリスクが約2倍上昇する。
 - VAPを発症した患者は、ICUへの入室期間が約6日間延長し、多額の追加医療費が発生する。
- 当該感染症はICU入室期間を延長するだけでなく、医療費増大の原因にもなる。
- 発生率の減少は、死亡率の低下及び医療費の抑制につながり、医療の質を問う指標となりえる。

分子:人工呼吸が契機となり肺炎を発症した症例数

分母:ICUにおいて人工呼吸器を装着した患者の延日数

参考値:3.5(対1,000人工呼吸器装着日数)(分子641/分母183,744)

分子:集中治療室において分母と同一期間に発生し、発生時または発生48時間以内に気管切開口または気管挿管を通して連続的に呼吸の補助または管理をする器械を装着していた患者における肺炎のうち、JHAIS委員会医療器具関連感染サーベイランス部門による人工呼吸器関連肺炎疾患定義に合致する肺炎症例数

分母:集中治療室における人工呼吸器装着患者数を、一定期間中毎日、一定時刻に数えた合計(人工呼吸器装着日数という)

(引用元:日本環境感染学会JHAIS委員会「医療器具関連感染サーベイランス部門サーベイランス結果報告書 2009年4月～2016年12月データサマリー」)

